国立公文書館
National Archives of Japan

内閣文庫圖書之印

明治十二年購入

国立公文書館
National Archives of Japan

鹽尻卷之九十一　異本汐尻書抜

足利家十一位
仲哀天皇
佐保姫　於田姫
鬢金ト鬢金香
熱田和歌會
楚經經殺生具戒
宝治の事　但吉法書
尾州經誠ハ墓碑銘
朱子曰君臣父子之大倫
大明一統便覽云

當家十一位
班足太子
本多彩
吉春不再来
於の海山
田圃
不破寄彩ハ法ハ事
尾州岩友ハ墓碑銘
どうら
洛内戸口　尾州府下市井戸口

京洛五十餘所、雷電
紫荊樹
友人野中氏鷺鷥の詩
泉州大多郡万代宮
撫田左神授位
東國陣道記
物部侯右の右
撫田構式
國名風土記曰伊豫國
夫
直相
荒花
敦盛の古彩像
源氏物語の人
生の字
撫田社沙弥
大江匡衡為尾張守
撫田橘添前橘樹
天鹿児弓
活套
陸田
生道塩
縣度
奉神位始
光明后七々の佛事
猩梅
市列
央宿王の謚
尾張連者孫尊の祖

○足利家十一位　鹿苑院義滿時定之

御一族　大名　守護　外様

評定　御供衆　申次　番方

國人　奉行　末男

○當家十一位　大猷院家光公時政定之

御一門　國守　侍從　四品

嫡子　万石以上　國守二男三男　四品以上嫡子

万石以上嫡子　外様高家　番方

○仲哀天皇諱足仲彦日本武尊子也母両道入媛

在位九年御歳五十二　依日本紀如此

謹按日本武尊之薨景行天皇四十一年辛亥

也

仲哀天皇生成務天皇即位十九年己丑其中間三十七年欠以此見之則仲哀非日本武尊之子乎但紀年紀時誤之乎不可得知之姑書以待後之君子耳

○新訳仁王経曰有一太子名曰班足登王位云々祀塚間摩訶羅大黒天神云々青龍院云大黒天神鬪戰神也若礼彼神增其威德拳事皆勝故嚮祀也云々

倭俗以大黒天為軍神者拠之也班足之祀神賢愚経曰祀羅刹普明王経曰祀樹神師子断

肉経曰祀山神皆浮屠妄誕也足取之就中山神之名佛経間有之我邦所々祀山神者但其山之精神也但有習異教而祭邪神者亦可察之也

○佐保姫と春日姫と然り共事[illegible]

[illegible]

河原山[illegible]

根橋あり[illegible]

[illegible]

○[illegible]

[illegible]

の所もつ尽さん様人かうり侍ぬ憐の姿をすた
しの姿抑て幽かりて横笛横笛
姿を変じて不変の縁ちりてまに一夜山寺
岩石かつ比かりて橋あり歩すきて其所の人
語り伝へて嗚呼財あり災害の道を記斯
のこりて水あり立て後き橋の少き跡け火を
悲む事を更て岩を穿ち谷を埋て人の世の繁
是を実に栄く寡少なるを嘆く
時を思へ福福財を時に人力のなすもの
にあらず何をの為何をの為
軒春醪獨撫

静寄東

○黄金と黄金香と同しかるに様を菜花と見
葵の影も十種ありて一本に本源を不覚

○青春不再来

斯生始五少年叢　應接比来宜白翁
今歳春情非去歳　悲歎共遺付答通
答嘴答微笑也通馬失也王制公の治と人間栄枯
付答通とい比りと思比とも形　実も夢幻の
為たり比紙ホけもも伝秘の世を況や浮世百年
の中多くい心たりしものの
かり比唯然吉西ッ方ちり京出て不を出ん人こと
かりこりいん年も問題とす

信景

[illegible]水飛石似世間　風光可惜如春流
鏡中除忽幾人去　對影不知何白頭

○熱田和歌會

春日陪熱田社寶前同詠　社頭松和歌

[illegible]花を橋の[illegible]　松[illegible]
かゝ[illegible]　あけ[illegible]玉垣

一以下俗十八人　十八首あり略之

右の懐紙熱田の神庫小[illegible]あり

○春日井郡吉根村[illegible]

[illegible]

[illegible]

○梵網経殺生戒第十曰菩薩乃至殺父母尚不加報況殺一切衆生云〻

嗚呼浮屠無父母如此乎夫為君父不報仇則不敢戴蒼天孝子忠臣豈今浮屠氏犯不忠不孝大罪男宜致思

同不生自要戒第三十六曰寧呑熱鐵丸云〻不以破戒之口食信心檀越百味飲食又曰寧臥大猛火羅網熱鐵地上終不以破戒之身受信心檀

越百種林坐 放縱破戒者豈有此等坐囲之志 仏経凡不弁之而妄言左多矣
愚披俗傳三社託宣 見神楽岡記 及愚童記等 八幡託宣所謂
雖食鉄丸不受心穢人物雖坐銅焔不到心濁
人處者蓋取梵綱之文為之具六根清浄之言
出法華等云々

○田圃なと東國の俗ハこうもんつくり一稲州なと書付しをき
しか人ありて稲ハ元来こうもんとなへしもなと
なりしいふはまなりしものハをもなきものの果也

○着聞集に安治の比帝住吉に御幸の時神主宮
居なと尋ねしに看より来付し人々の訪ね讀
成しと隠なき事あして或人様に来付りし欽に

来り給ふ詣出ちしせも来りしと
見すれ給ひの上人未あまりしに
あらはれみ出るき詣と存しし詣所なもちく
當覚院の將軍 家茂 東國にありけれしとの不破の
關屋なんと薨せられしちかきと世の靜かな俗にも
法覧あるき法あるかの如きに國の何京法備に軒
も此の事もを見て石屋にしあたまても来り其法度
不付にも不具なるに申所なりや法花のさき悟れしら
あきかくるく見ことそりしは板の代
しくすとあるし世 不破 の關 と
かつまはりてここに御く供せしを許りしとな

○前中納言從三位尾張太守源經識卿父從二位
前大納言源光友卿母從庚大將軍從一位左大
臣贈正一位太政大臣大猷院殿源家光公女靈
仙院元祿六稔癸酉夏四月襲父之封同十二年
己卯夏六月五日享年四十八薨于武州江戸市
買之邸同月廿四日葬于尾州愛智郡古井邑德
興山建中寺

○尾陽侯二品前亜相源正公之墓

從二位權大納言源朝臣光友父故從二位權大
納言義直嫡母淺野氏高原院夫人実母吉田氏
歓喜院寛永二年乙丑七月廿九日生於尾州那
古野城二十六歳襲封元祿六年癸酉致仕十三
年庚辰十月十六日薨于春日井郡山田庄大曽
根別墅壽七十六歳謚正公法諱瑞龍院天蓮社
順誉葬愛智郡古井邑德興山建中寺

右石誌深田正室作之實得誌躰

○朱子曰君臣父子之大倫天之經地之義而所謂
民彝也故臣之於君子之於父生則敬養之没則
哀送之所以致其忠孝之誠者無所不用其極而
非虛加之也以為不如是則無以尽乎吾心云尓
然則其有君父不幸而罹於横逆之故則夫為臣
子者所以痛憤怨疾而求為之必報其讐報者其志

豈有窮哉故記禮者曰君父之讐不与共戴天寢
苫枕干不与共天下也云〻 朱子文集 七十五
本書此条ゝ次赤穂義士亦明方剛儒の事あり
後世も此二条既に前に出せり文を省く
○或人ゝ問て曰今世間知る所の其由
いひつたへ稱する小出侯家の細卿と尹侯家の
ハ卿なりし諸侯の大なる本を挽のこ[illegible]
がゝしゝ何の為ゝゝ[illegible]人あり下学集に大猷寺
ゝ[illegible]ハ判の略カハキヨの者の[illegible]
○大明一統便覧云北直隸八符戸四十一万八千
七百八十九口三百四十一万三千二百五十四
人南直隸十四符戸一百九十六万二千八百一
十八口九百九十六万七千四百三十九人
此南北二京戸口也其十三省戸口今略之
○我日本平安城洛内戸四万七千口五十万七千
五百四十八人是延宝九年九月所數其洛外亦
殆足今之相比況朝廷官家武臣多非斯限亦我
尾城下市井戸六千六十二口六万三千七百三
十四人是元禄五年九月所數也
○辛巳六月廿日の[illegible]京洛暴雨迅雷[illegible]
京中五十四五所一時に落[illegible]院の御門二条の城中
[illegible]

壬生の民家雷火にて焼失ありしが、[illegible]
[illegible]も柿[illegible]
○[illegible]花　小布地高サ二尺ばかり
[illegible]月盛[illegible]
[illegible]の色[illegible]花[illegible]
[illegible]花[illegible]
紫荊樹　[illegible]
○紫荊樹（スハウノキ）　[illegible]紫の花を[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
○武州西國行脚して帰[illegible]彼云ふ摂州須磨

寺に平敦盛の古彫像あり又因幡池田家の[illegible]
[illegible]民[illegible]
の裔[illegible]
[illegible]
尾物犬山瑞泉寺無因禅師も[illegible]
[illegible]
○友人野中氏熱田白鳥陵詣[illegible]
[illegible]
少詩一絶[illegible]
琴に根山の歳墳　衛風寒鷺の鴉群
崑夷越女暁南山　一任蛾眉曙色分

越渓の学仏膚の皆徳論の人物身体の基きと
かるべき小考を以て[illegible]や作[illegible]
小人の[illegible]小[illegible]氏[illegible]

○源氏物語人名凡そ四百廿七人為く寓言也紫式部
荘子の書を敷衍く妖艶の説を巧みにせ[illegible]寓仏の
初[illegible]成く康和の末[illegible]寓[illegible]也河海の序[illegible]
源氏八本　源光行校合

行成本　今不傳　二條本　伊房本　冷泉本　中納言朝隆本
黄表紙（キビヤウシ）　堀川左大臣俊房本　京極本　後三位篤子本　唐紙（カラカミ）小琴　号尚侍本　法性寺殿本
五條本　俊成卿本　青表紙（アヲヒヤウシ）　定家卿本
此外河内本[illegible]河内[illegible]此本と校合

自取捨[illegible]家本[illegible]也

○和泉國大島郡万代（モズ）宮を神功皇后廟也　神祇宝典　万代ハ百舌鳥
（島ノ毛愛ノ赤書）同國大島神社天種子命也　神祇宝典
按ずるに[illegible]記の説く大島の社[illegible]照大神の
法号[illegible]曰[illegible]部兼熙の説也一名泥[illegible]
日本武尊[illegible]姓氏録に[illegible]和泉神別六十氏の中
大島連[illegible]也産霊産霊命の後裔[illegible]天種子
命ハ此産霊命の神孫大島氏の祖也宝典の説至為
[illegible]偶大島と称する社五所あり
神名式曰
大島郡

大島神社（名神大月次新嘗）　大島井瀬神社

大島濱神社（鍬）

如此縁起ニ一神ニ成ル故ニ此中一所ハ大社其他ハ美濃山社ニシテ祭幣ノ分ハ

○出の字去声スイの名ハ紀伝ニ附ル所ノ色紙ニ和訓イダスト雖モ是非ニスイの名ハ

ヲ産霊出魚トスイケツトモ訓ス弥陀経の出和雅音又出廣長舌の出も皆スイの音ニ訓ムモ誤ナリトフ人伝ル

○續日本紀（後）仁明天皇詔奉授座尾張國從三位熱田太神正三位並納封十五戸云々

○増鏡文永九年下後嵯峨後新院御事云々尾張熱田社御處分云々

處分トハ割例其事也

○東國陳道記（細川玄吉ノ作）曰當社中八劍宮者為日本武尊由有演説云々

○大江匡衡為尾張守時熱田社作大般若経書寫之願文一篇本朝文粋十三匡衡手自書写大般若経自長保三年八月至寛弘元年十月首元四箇年竟其功大江匡衡願文鎮守熱田云々熱田

国立公文書館
National Archives of Japan

又海道記熱田權現云〻

○妙音院太政大臣師長治承三年配於尾張國井戸田大臣祥熱田社於神前彈琵琶云〻

或記曰其曲流泉啄木楊真藻三曲云〻亦曰上玄石象云〻盛衰記及十訓抄有此事

○或曰熱田楠御前楠樹則當社四至八界中央也本社在其東御田社在其西宗廣社稷之間有此樹一秘也云〻

○熱田講式

日本大棟梁熱田太神云〻

倭武尊改天叢雲字稱草薙尤云〻

朱雀院御宇始枚生會於當社云〻

福原臣清盛宣一切經會云〻

西王鎮護宗廟万民與樂社壇也云〻

呼傳濵云〻

松炬島云〻

第一讃蓬萊宮者云〻

立島居於九所云〻

光渡裁淡橋云〻

去白鳳記云我是魔醯首羅智所城主三億摸頌

大威德五大力示現熱田太神也云〻

永正六年己巳八月日

座主權大僧都良信 花押アリ

○天鹿児弓如鹿背ゟ之弓是云発向弓天羽〻矢
作二羽矢於神社納二羽矢矢直陽作二羽者陰
弓之長七尺五寸曳則一丈五尺三五ノ数也神代矢
長五尺弓之三多一以為矩軍前人○時天鹿児弓天羽〻矢呪
三度例也云〻神代口訣

○國名風土記曰伊豫國本書跡國月神御産國也
云〻

今按詠和歌御坐國且名神記云出雲國大日
孁貴産生之地而今亦有日神垂跡也故名日
御崎云〻

○活套　活套頭　死套頭

出無寛録言活套頭者断罪人活殺不定之旨
也死套頭者當殺之罪人也字書之例有活套
之字以可為活字以為死字未定也熟字謂之
活套或韵套○登縮也此字注司馬公五音集韻ニ出以書籍謂一帙一套之套亦縮也

○夫龍陽物也藏雲蓄雨吏民兼祀而望雨故異邪
多當龍祠人禱福如吳江龍王堂之類甚者安其
神像程子闢之佛氏亦有龍王龍女之説而怪誕
妖異尤甚也陰陽家亦為龍祭

○陸田ヲ波多ト訓ス日本作畠字按ニ波多ハ墾田也
見延喜式北七主税下

○直相ハ神供ノ徴也ルヲ云或ハ直會ト書義同ニキ欤又

直禮ト書ハ非也近世神宮皆直會ト書ク直相ノ字
延喜式三十二大膳ノ上ニアリ
○生道塩　式三十二大膳下式頭注曰堅鹽也云々
亦曰生道尾張國郡里名也云々
今按知多郡東浦也
○縣度　出前漢書九十六西域傳上師古注曰縣
繩而度也
我邦山中亦有之
○市列　出西域傳注市有列肆云々
○勝宝元年十二月戊寅迎八幡神於年群郡於宮
南梨原宮造新殿以為神宮丁亥奉大神一品比
咩神二品
是見續日本紀十七按奉神位先此無拠見效
○続日本紀十九勝宝六年八月正四位下安宿王
卒誄人奉誄諡曰子尋葛藤高知天宮之尊云々
按上代天子之号有数字者當時誄詞而皆諡
号矣若聖武帝者尊号也倫称勝宝感神聖武
皇帝諡曰天璽國押開豊櫻彦天皇続日本記注
曰僅按勝宝七歳勅曰太上天皇出家飯佛更
不奉諡至宝字二年勅追上此号諡云々
○同書廿三曰廃帝天平宝字四年七月癸丑天下
諸國奉造阿弥陀淨土盈像仍計國内僧尼写称

讃淨土經云〻

按是光明后七〻之佛事也釈氏説曰同七年六月藤豊成之女感得淨土図像又常誦称讃淨土経云〻

夫當麻曼陀羅即宝字四年所造而後豊成之女得之歟但寫宝字四年之図歟続日本記宝字七年六月之記無曼陀羅之事蓋浮屠氏妄誕也

○尾張國春日井郡小針村尾張神社祭神天香語山命云〻小治田連等祖神也按続日本記廿九曰称徳天皇神護慶雲二年十二月甲子尾張國山田郡人従六位下小治田連某等八人賜姓尾張宿禰云〻

按尾張連尾張宿禰太祖神香語山命也然賜姓時不同皆見國史

○猟梅を真臘國より来る説

猟梅を真臘國より来る説

[illegible]

[illegible]

作品葉のたゝ姿を梅に似く梅花のたゝ色なるものゝ
花譜云臘梅本非梅類以其與梅同時香亦相近
色酷似故名臘梅最先開色深黄如紫檀花
密香濃若檀香此品最佳云々

内閣文庫

添花小英々たり金蓋鎖春寒々たり山谷より
今の人臘梅を梅なりとおもへり詩を作りたるも
多梅者の梅を梅と呼ぶ世人をいつもかなしらぬ事のゝ
如く物を知らず其理を究むるに我先生の門人なる
ゆゑ余言をすゝめ下問を乞ふ先者香元の序
より次述をいはし世を奪きが義

内閣文庫

国立公文書館
National Archives of Japan